

# THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区  
木更津東ロータリークラブ  
2018-19 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111  
●事務局 木更津市東中央 3-5-2 第2 三幸ビル 101 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2018-19 年度国際ロータリーテーマ  
インスピレーションになろう BE THE INSPIRATION

第 29 回 例会 NO. 2441 2019 年 2 月 20 日 (水)

## サン・ジミニャーノ歴史地区



1990 年登録 世界遺産

### ■司会進行 浅野文夫 SAA



- ◆点鐘 渡邊元貴会長  
12時30分
- ◆Rソング「手に手つないで」
- ◆出席 会員 50 名  
出席 35 名・欠席 15 名
- ◆出席率 77.77 %

◆前々回出席率 66.66 % 修正後出席率 77.08%

### ◆欠席者【敬称略】

石渡正明・齊藤新一・嶋津正和・鈴木秀幸  
三沢 猛・濱田昌己・林田謙志・宮寺順子  
藤永範行・吉田和義

### ◆メイクアップ【敬称略】

・2/16 会長エレクトセミナー 加藤智生

### ■ゲスト・来訪ロータリアン紹介 渡邊元貴会長



◇マリリン・ダバリ会員  
【マニラ南ロータリークラブ】

※遠い国からようこそ！！  
メイクアップで我がクラブ  
へいらっしゃいました。

- ◇ガッラゲ・ナディーシャ・セウワンディさん  
【米山奨学生】
- ◇鈴木壮一会員 <君津ロータリークラブ>  
【米山記念奨学委員会】

ホームページ <http://ki-east-rotary.ala9.jp>

### 木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 元 貴  
幹 事 大 里 光 夫  
編 集 勝 呂 泰 樹

### 国際ロータリー

R I 会 長 バ リー・ラ シ ン  
地区ガバナー 橋 岡 久 太 郎  
ガバナー補佐 吉 野 和 弘

## ■2019-20 年度地区委員委嘱状伝達式

渡邊元貴会長



山田修平会員



堀内正人会員

### ・山田修平会員

【地区諮問委員・地区立法案検討委員・地区監査委員  
R 財団資金監査委員】

### ・堀内正人会員

【地区補助金プロジェクト委員】

## ■会長挨拶・報告

渡邊元貴会長



ノーベル賞を受賞した iPS 細胞研究所の山中伸弥所長が、2月17日に開催された京都マラソンでフルマラソンを完走しました。山中教授は、1962年生まれの56歳です。昼休みのジョギングは欠かせないのだそうです。走っている時は、仕事のことだけに集中できるのだそうです。若いころの山中教授は、臨床医としてあまり活躍できませんでした。整形外科医としてスタートを切ったそうですが、不器用だったのか先輩医師からは、「ジャマなか」とからかわれたというエピソードは有名です。しかし、基礎研究の分野に身を転じてからは、アメリカで人生の師となったロバート・メイリー博士に出逢い「Vision&Work hard」の（長期ビジョンに向かってひたすらに仕事をする）という教えを受けます。「一生懸命にやるだけではだめで、長期ビジョンが大事なのだ。この時、山中教授は何のためにアメリカに来たのか、深く考えたのです。目覚めて「VW」をモットーに挑戦しました。

当時 ES 細胞は受精卵から培養するので、実用化するには倫理的な問題をクリアしなければなりません。帰国後は認められず幾度も艱難にあうのですが、山中教授は「VW」を信望して「体細胞から ES 細胞のような万能細胞を作り出す」という当時の常識をはるかに超える長期ビジョンを打ち立て研究費の調達に成功しました。ど真剣な教授のもとにはユニークで優秀な学生が集まりました。山中教授のチームが世界で初めて iPS 細胞の培養に成功したのが2007年、それから5年後にノーベル賞を受賞です。

ノーベル賞を受賞したからといって、潤沢な研究費を使えるというわけでもなさそうです。実は、再生医療の研究には大変なお金がかかるのだそうです。研究を早く進めたくても現実には厳しい。山中教授のマラソンは膨大な研究費用を調達するための一つの手段でもあるのでした。京都大学のウェブサイトを見ると、「iPS 細胞研究基金」というのが出てきます。フリーダイヤルの番号がでてくるのですが、その番号は「0120・80・8748（はしれ・やまなか、しんや）」これを宣伝しながら走ったら、なんと一回のマラソン大会で1000万円寄付が集まったのだそうです。年間10億円の研究費を集めるには100回走ればよいそうです。驚いたことに、フルマラソン山中教授のタイムは3:24:42だそうです!!

月曜日の読売新聞の報道で「脊髄損傷 iPS 了承、神経再生、マヒ改善期待」という見出しがありました。「iPS 細胞から、神経のもとになる神経前駆細胞を作り、患部に移植する。傷ついた神経が再生し、麻痺した機能が改善すると期待される（中略）研究チームは2~3年以内により治療が難しく患者の多い慢性期を対象にした治験に進む」とありました。

私の母はパーキンソン病に罹って10年ほどになります。このようなニュースに希望をもって母もいることだと思います。そして、山中教授のような心身ともにすぐれた人格者が世界の再生医療を牽引していることは私たちの誇りです。よろしければ皆さまも、このフリーダイヤルに連絡をしてみてください。0120・80・8748（走れ山中伸弥）です。

## ■幹事報告

大里光夫幹事



1) 第2790地区RYLA委員会より「第42回RYLAセミナーへのお礼状」が届いておりますので回覧いたします。

2) 第2790地区青少年委員会より「ロータリーデー・希望の風コンサート講演会のご案内」が届いておりますので回覧いたします。

### 2. 他クラブからのお知らせ

1) 袖ヶ浦 RC より「例会変更のお知らせ」が届いておりますので回覧いたします。

2) 君津 RC・上総 RC・富津中央 RC より「週報」が届いておりますので回覧いたします。

### 3. その他のお知らせ

1) 「KIFA はがきつうしん第210号」が届いておりますので回覧いたします。

2) 東日観光倶より「ハンブルグ年次大会の参加募集案内」が届いておりますので回覧いたします。

3) 社会福祉法人 一粒会より「新年のご挨拶」が届いておりますので回覧いたします。

### 4. 回覧

・第2790地区RYLA委員会より「第42回RYLAセミナーへのお礼状」

・第2790地区青少年委員会より「ロータリーデー・希望の風コンサート講演会のご案内」

・袖ヶ浦 RC より「例会変更のお知らせ」

・君津 RC・上総 RC・富津中央 RC より「週報」

・「KIFA はがきつうしん第210号」

・東日観光倶より「ハンブルグ年次大会の参加募集案内」

・社会福祉法人 一粒会より「新年のご挨拶」

## ■委員会報告

◇ニコニコボックス クラブ管理運営委員会  
石渡雄悟会員

### ・山田修平会員

諸岡ガバナーエレクトから地区諮問委員、地区立法案検討委員長、地区監査委員兼ロータリー財団資金監査委員の仮委嘱状を頂きました。地区内クラブの活性化頑張りたいと思います。

### ・内田 重会員

皆様こんにちは。昨日19日は入会記念日でした。16年がたちました。お祝いのスーパームーンを楽しみにしていましたが、残念でした。

あれから16年、女性会員も5名入会し、なごやかな例会が楽しみです。大岩さんの赤いコスチュームに



拍手。

・堀内正人会員

本日は米山奨学生のナディーシャさんより卓話をいただきます。話が大変お上手だという評判ですので楽しみにしていただけだと思います。よろしくお願いたします。

・塚本秀夫会員

本日のナディーシャさんの卓話をとても楽しみにしております。

■例会アワー

国際奉仕プロジェクト委員会 堀内正人会員



本日は、米山奨学生のガッラゲ・ナディーシャ・セウワンディ様に卓話をして頂きます。



テーマ

「人生を変えた奇跡の出会い！」

卓話者

ガッラゲ ナディーシャ セウワンディ 様



皆様こんにちは、本日はこのような卓話の機会を与えて頂き、感謝いたします。不慣れではございますが、精いっぱいさせていただきますので、よろしくお願い致します。

私は光り輝く島という名前と呼ばれている小さな島国、スリランカから参りました。ガッラゲ ナディーシャ セウワンディと申します。名前が少し長すぎますので「ナディーシャ」と呼んでください。私のモットーは「努力はうらぎらない」ということです。どんなに辛いことがあっても諦めずにコツコツ努力していくことが好きです。趣味は献血です。一般にみて変わった趣味だなあ〜と思われる方もいるかもしれませんが、献血が私の趣味となった大きな理由があります。

スリランカでは1983年から2009年まで26年間の内戦が続き、内戦でたくさんの方々の方が亡くなりました。内戦が一番ピンチになった2008-2009年頃ニュースで毎日のように、亡くなられた方の遺体や大出血で病院へ運ばれている軍隊の方の姿などを放送していました。自分の命まで捨てて、国を守るために戦っているその方々のために私には何が出来るかを考えたことがありました。その時に思い付いたのは献血です。その頃私は体重が50キロ以下で献血できませんでしたが、日本に来てはじめて体重が50キロ以上になり、やっと私の趣味の献血をすることができました。3年前にはじめて献血をしたときに涙が出るほど嬉しかったです。健康な間はずっとこの趣味を続けていきたいと思っています。

現在私は八千代秀明大学観光ビジネス学部4年生で

す。大学で観光ビジネスについて幅広くさまざまなことを学んでいます。簡単にいうと観光業の歴史、現在の状況、観光地や世界遺産、サービスマナー、航空作業、などです。それ以外に2年間必修として日本語を学び、その後も、ビジネス日本語や上級日本語会話など日本語能力をもっと磨ける科目も取ることができましたお陰で日本語検定N1を取得することができました。そして、今年目標だった日本で就職するという大きな目標もお陰様で達成することができ、今の私はとても幸せです。

では、私の国スリランカについて、少し紹介したいと思います。スリランカはインドのインド洋に突き出た先端から少し南東に位置する小さな島です。スリランカは自然の豊かさから「インド洋の真珠」と呼ばれています。

現在スリランカと呼ばれる私の国は、昔「セイロン」と呼ばれていたそうです。様々な鳥や動物が棲む緑豊かで、人々の心を射止める宝石。そして、どこでも暖かい人々のおもてなし！

このように手を合わせて挨拶する時に「アーユボーワン」と言います。長生きできますようにという意味です。

●人口は約2,000万人。北海道の約8割という国土の中に、自然、民族、文化が驚くほどの多様性を備えています。

●首都は、スリー・ジャヤワルダナプラ・コーッテという町です。

●シンハラ人、タミル人、ムーア人の民族がスリランカに住んでおり、宗教が4つあります。人口の70%占めているのは仏教。11%がキリスト教、8%イスラム教で、10%がヒンドウ教です。

スリランカの名物は紅茶です。スリランカ紅茶はセイロンティーと呼ばれ、世界中で飲まれています。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、実は、自動販売機などで簡単に手に入れる「午後の紅茶」。この茶葉もスリランカ産なのです。小さな島国ですが、きれいな海に囲まれており、世界遺産や遺跡、豊かな自然など見どころはたくさんあります。皆様も機会あればぜひ一度訪れてみていただければと思います。

私は、日本に来て5年経ちましたが、あっという間のように感じます。今その時間を振り返ってみると、辛いこともたくさんありましたが、後悔することは何一つありません。

日本へ留学する数年前、私の人生には未来も希望も失われた時期がありました。すべての始まりが大学入試に合格出来なかったことです。ここで、皆さまにスリランカの教育について少しお話ししたいと思います。スリランカでは、小学校から大学まで教育費がすべて無料です。私立大学が数えられるほど数が少なく、学生が高校卒業後大学に入るなら国立大学に入る事が普通です。大学に入るための試験がアドバンスレベル資格試験または、A/L試験と言います。A/L試験を受験者12万人のうち7万人が大学入試資格を得るが、実際に大学に入学できるのはわずか2万人となっています。設備や予算の関係で大学の定員入学者枠が限られていることが原因とされています。

その状況中でしたが、大学に入るという夢をずっと抱き続けてきた私には、大学入試に合格出来なかった事がとてもショックで信じられませんでした。このことは私にとって、人生最大の失敗だと思えるほどに深刻な出来事でした。



なぜならば、高校生活二年間私は、受験のために努力に努力を重ねて精一杯頑張っていたからです。そのためこの結果をなかなか受け入れられずにいて、自分がこれから進むべき道も決められずに何年も悩みました。ですが、その失敗があったからこそ、日本の大学に留学することができたのです。

大学ならイギリスやオーストラリアにもありますがなぜ日本にしたの？」と多くの方に

聞かれます。答えは日本語です。スリランカの公用語はシンハラ語ですが、社会人になってからほとんど使うのは英語です。そのため英語を話せる人は多くいますが日本語などほかの言語を話せる人はめったにいません。そのことが、私が日本語に興味を持つようになった一番の理由でした。そして、違う国で生活し、文化の違いや人間関係などを色々挑戦しながら、自分を磨いていきたいと決めました。そうして日本は私の第二の故郷になったのです。

では、私の家族について少しご紹介したいと思えます。家族は両親と弟一人の4人です。弟は今高校生で将来弁護士になることを目指してスリランカで勉強を頑張っています。そして、私は既婚者で、彼も同じ大学で一緒に勉強しています。ところで、2年前に経済的な理由で夫は大学辞めようかと考えていたところ、私はロータリー奨学生として選ばれ皆様のご支援を頂いたお陰で、私のだけではなく夫の人生も大きく変わったと私は感じています。現在私はお世話になっている大網ロータリークラブをはじめロータリアンの方々が見守って下さったからこそ、夫も無事希望の会社に就職することができました。皆様方の優しさに心から感謝いたします。

日本に留学して大学に入るという大きな夢を実現できた私は、新たな目標を持って前を向いて頑張っていました。それは、将来日本で就職することです。そのために日本に来て一番印象に残った日本のおもてなしを学ぶことがまず、やりたいことの一つでした。自分のことよりも相手の立場や考えを尊重できる日本の社会は世界でもまれだと思います。

その思いやりの心が世界を平和に保つ一つの方法ではないかと私は感じています。私にとって空港はおもてなしの玄関であり、成田空港でグランドスタッフになるということが一番の目標でした。

おととしの夏、将来の目標に向かって一歩前に踏み出すことができました。それは、インターンシップに参加できたことです。2週間羽田空港でJALスカイのグランドスタッフ就業体験に参加し、将来が待ち遠しくなりました。体験を通じて思いやりの心でお客様対応や、サービスを提供する際に必要になることをたくさん学び、日本社会を肌で感じることができました。将来に意味のある経験が積めたと思います。

ところが、大学で日本の就職活動の説明を受けたときに、私にはアルバイト休んでインターンシップに参加するなんて無理！だと考えていました。しかし、ロータリー奨学金を頂き、お金の心配なく安心して、2週間もアルバイトを休んで、インターンシップに参加することができました。そして先程少しお話ししましたが、去年の7月に私の2番目の目標だった日本で就職！という目標もロータリアンの方々のご支援、ご指導のお陰で達成することができました。それは、私の第一志望の成田空港でのグランドスタッフという仕事です。この場を借りて、大網ロータリークラブの方々をはじめロータリアンの皆様へ心から感謝いたします。

そして、どうしても、叶えたいもう一つの大きな夢があります。それは、いつの日か私もロータリアンになりたいという夢です。

ロータリーの支援を頂いて、私が感じた気持ちを誰かに与えたいです。ロータリアンのように誰かのために愛情深く一生懸命にありたいです。そのような私を作るためにこれからの人生を頑張っていきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会の支援を頂くようになったからこそ、私の人生がまたキラキラと輝きはじめた私は感じています。奨学金を頂く前に私は学費がちゃんと払えなくて、とても辛い思いをしてアルバイト浸りの生活を送った経験もあります。大学の9時から夕方4時までの授業を終わってから急いで6時から夜10時までのアルバイトへ、時には深夜アルバイトで夜10時から朝6時までのアルバイトもやったことがあります。そのような生活を送ってきた私を助けてくれたのはロータリアンの方々です。ロータリアンの方々のおかげで私の人生が大きく変わり、変化のある日常を楽しめるようになったのではないかと私は感じています。また、両親に経済負担をかけずに勉強続けられるのも皆様のおかげです。

私はロータリー奨学生として選ばれたことを母親に伝えた時に母が嬉しくて思わず泣き始めました。「ロータリアンの方々があなたを助けに来て頂いた神様です！」と今も話しています。母の言う通りです。私の神様がロータリアンの皆様です。人生を変えた奇跡の出会いで、感謝してもしきれないと私は感じています。

ほかの奨学金と違ってロータリーの奨学金はお金では買えない友情、愛情、異文化経験や人生の宝物と思えるようなたくさんの出会いを私たち奨学生にプレゼントしてくれています。そして、ロータリー米山記念奨学生として選ばれたことは、自分の人生を振り返ったときに後悔のない人生を送るための道を案内してくれているかのように私は感じています。

私が現在大変お世話になっている大網ロータリークラブは私にとって、もう一つの家族です。毎月の例会に参加することは、実家に戻って来たような気持ちになります。美味しい食事やデザートまで用意してくれていて、カウンセラーをはじめ事務員の方まで暖かい気持ちで私を支えてくれているロータリアンの方々が、誰かのために愛情深く一生懸命になることを私に教えてくれました。

ロータリークラブへの感謝を言葉にすることはなかなかできないことですが、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、本当にありがとうございます。いつの日かお世話になった方々や日本に恩返しができるような人に役立つ素敵な人間として活躍することを願っています。そして、ロータリー奨学生になったというこの貴重な機会を一生大切にしていきたいと思っています。

本日はご清聴頂きありがとうございます。



点鐘 渡邊元貴会長 13:30